

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立鏡山小学校																
1 前年度 評価結果の概要		・業務改善、教職員の働き方改革を推進し、自らの授業を磨いたり、日々の生活を豊かにすることで、自らの人間性を高め子ども達に効果的な教育活動を行う。 ・児童が、自他の生命を尊重し、思いやりをもって他者に接することができるよう、人権教育や道徳の授業を充実を図る。																
2 学校教育目標		自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成																
3 本年度の重点目標		【知】 ① 学習規律を整える。 ② 個別最適な学びと協力的な学びを通して、主体的にいきいきと学ぶ児童を育成する。 ③ 家庭学習の工夫。 【徳】 ① 児童・保護者・職員の心の教育を充実するために、校内体制を整える。 ② 特別支援教育の充実を図る。 【体】 ① 保護者と共に食育を推進する。 ② 望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。																
4 重点取組内容・成果指標												中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目																		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価										
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言									
●学力の向上	○資質・能力を育成する授業についての 共通理解・共通実践 ○学習規律の確立 ・「か・つ・おタイム」の徹底 か・・・片付け つ・・・次の時間の準備 お・・・お茶・おトイレ	○「学力向上対策評価シート」の【共通実践】に 基づき、授業改善に努めることができます か」の質問に対し、肯定的な回答をした教師8 5％以上 ○「次の授業の準備をして休み時間を過ごすこ とができますか」「授業が始まる前に席につ くことができますか」の質問に対し、肯定的 な回答をした児童85％以上	・学力向上対策評価シートを校内研究と連 携させ、より取り組みやすくする。 ・校内研修で定期的に学力向上対策評価 シートを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。 ・年3回「『か・つ・おタイム』強化週間」を設 定し、児童への意識化を図る。	A	・「学力向上対策評価シート」の【共通実践】に 基づき、授業改善に努めることができます か」の質問に対し、肯定的な回答をした教 師が96％いた。校内研修等により、意識化が 図られていることが伺える。 ・「次の授業の準備をして休み時間を過ごすこ とができますか」「授業が始まる前に席につ くことができますか」の質問に対し、肯 定的な回答をした児童が、それぞれ92. 8％、92. 4％いた。「教科書やノートを開く」 などの内容の強化に努めたい。		・		・		学習指導部 研究推進部							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理観 や正義感、感動する心など、豊かな心を身 に付ける教育活動	○「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生 活を送ることができていますか」の項目で肯定的な 回答をした児童85％以上	・学期に1回、低中高学年別の人権学習を実 施し、人権に関わるアンケートを実施する。	A	・「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生活 を送ることができていますか」の項目で肯定的な回答 をした児童が90％を上回った。これは校内での人権 教育が児童の豊かな心を育んでいる結果であると思 われる。今後も友達との関係性をより深めるような取 組を職員に紹介していく。	・			・		道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた 取組の充実	○「学校は楽しいですか」の質問に対し、肯定的 な回答をした児童85％以上 ○認知したいじめの3か月以内での解消率 100％を目指す	・構成的エンカウンターやソーシャルスキル トレーニングなどを取り入れた授業実践を 重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは 「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組 織的に対応していく。	A	・「学校は楽しいですか」の質問に対し、肯定的な回答 をした児童は89％で目標値を上回った。より良い人間 関係づくりの視点で各学級、授業実践等を重ねてきた ことが伺える。 ・認知したいじめの対応については、解消に向けて組 織的に対応を行うことで、3か月程で解消できている が、引き続き、児童の様子や人間関係を見守っていく 必要がある。	・			・		生活指導部【峰・野中】 各学年主任							
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実 現に向けて意欲的に取り組もうとするた めの教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれ ていますか」の質問に対し、肯定的に回 答した児童85％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っていますか」の質 問に対し、肯定的な回答をした児童90％以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通し を持たせ、学びの振り返りを行う活動を仕 組み、自己の姿容に気付かせていく。ま た、教師は活動の過程において児童に1日 に1回以上肯定的な声かけをするように意 識する。	B	・アンケート結果によると、「先生が自分の良いところを認 めてくれる」と回答した児童の割合は全体の87.4％で、設定 した目標を上回った。一方、自身の将来の夢や目標につい ては、「はっきりある」「どちらかといえばある」と肯定的な回 答した児童の割合は86.1％となり、設定した目標を下回っ た。今後も児童の良きや頑張りを認めていくことを継続しな がら、児童の意欲の向上や夢のきかけ作りにつなげる必要 がある。	・			・		主幹教諭・教務主任							
	○◎児童が自分や友達の良さを認めるこ とができる態度を育てる教育活動	○◎「自分や友達の良さをみつけようとしていま すか」の質問に対し、肯定的に回答した児童8 5％以上	・各学年グループまたは、低中高学年グ ループで学期に1回ずつ人権学習を行い、 人権意識を高めるとともに、友達の良いと ころを見つける活動を充実させる。	B	・学期ごとに低中高学年グループごとにまたは、学年ごとに人権学習 を行う予定であったが、実施することができなかった。後期では、前期 でできなかった分も含め、計画的に実施する必要がある。「自分や友 達の良さをみつけようとしていますか」の質問に対し89・8％の児童 が肯定的な回答をしており、目標値を達成している。各クラスにお ける学校生活全体を通した活動の結果だと推測される。	・			・			道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任						
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の 育成」	●「健康に良い食事をしていますか」の質問に 対し、肯定的に回答した児童90％以上	・食事の大切さを実感したり、命を作る人 （農業・畜産）への感謝の気持ちを持ったり できるように給食時間や道徳の時間に学 年に応じて指導を行う。 ・年に2回、食に関するアンケートを実施す る。	A	・アンケートによる調査では、「健康に良い食事を していますか」という質問に肯定的に回答した児 童が90. 1％、保護者が94％となり、目標数値を 上回った。学校だけでなく、家庭でも保護者が意 識して健康に良い食事を作っているからだと思わ れる。後期は給食週間があるので、児童の意識を より一層高めようと思う。	・			・		健康指導部 学校栄養職員 養護教諭							
	○運動習慣の定着化	○「授業以外で、運動やスポーツに進んで取り 組んでいますか」の質問に対して肯定的に回答 した児童80％以上	・スポーツチャレンジへの取組を推奨する。 ・運動できる場を確保するため、朝の時間 の運動場の開放を行う。	A	・児童へのアンケートによる調査では、「授業以外で、運動や スポーツに進んで取り組んでいますか」という質問に対して、 肯定的に回答した児童が85％で、目標数値を上回った。理由 の1つとして、朝の時間に運動場を解放したことがあげられ る。後期はスポーツチャレンジにも取り組む予定があり、さら なる数値の高まりが期待できる。	・			・		健康指導部 学校栄養職員 養護教諭							
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間 の上限を遵守する	・職員会議資料等のデジタル化を進め、効 率化を図る。 ・PDCAサイクルを意識し、行事の精選やス ムーズな運営に生かす。	B	・職員会議資料についてはデジタル化を取り入れたこ とで、業務改善につながった。 ・PDCAサイクルを意識し、スムーズな運営に努めてい るが、運営委員会や職員会議等については、さらに時 間を意識して運営して行く必要がある。	・			・		企画会							
	○教職員の連携促進	○「学年や部会など仕事が平準化できるように 主体的に連携しようとできていますか」の質問に 対し、肯定的な回答をした職員70％以上	・業務の負担に偏りがないか、企画会、運 営委員会で情報共有し、対応する。	A	・アンケートの結果によると、91％の職員が肯定的な 回答をしていて目標値を上回った。 実際には、月45時間以上の時間外在校時間勤務の 職員が固定化しており、平準化を意識した取組を継続 している。	・			・		企画会							
●特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制 の確立	○「密に職員同士で情報交換を行い、具体的 な手立てをもって支援することができましたか」の 質問に対して肯定的な回答をした職員90％以 上 ○「特別支援教育に関する通信を読んでいます か」の質問に対し、肯定的な回答をした保護者 80％以上	・特別支援担当者が学級担任や生活支援 員と密に情報交換を行い、児童の状況を 適切につかみ、具体的な手立てをもって支 援する。 ・保護者の必要としている情報を把握し、 特別支援部より通信を年5回程度発行し特 別支援教育についての理解を図る。	B	・児童の様子について学級担任や生活支援員と日々 情報共有することができており、中間アンケートでも9 3％の肯定的な回答であった。しかし、通常学級に 様々な特性の児童がたくさん在籍しており、日々の支 援が行き届いていない面がある。見取りを深め、情報 共有、手立ての話し合いを進めていく。 ・保護者向けの通信は計画通りに発行している。中間 アンケートにおいても88％の肯定的な回答がある。今 後も特別支援教育への啓発を進めていく。	・			・		特別支援部							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言									
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・									
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・									
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育																		
5 総合評価・ 次年度への展望		・ ・ ・																